

#### [成果情報名]水稲中生有望品種「恋初めし」の特性

[要約]水稲品種「恋初めし」は出穂期、成熟期とも「ヒノヒカリ」よりやや早い“中生の早”である。穂数はやや少ないが、千粒重、精玄米重はかなり重く粒厚も厚い。良食味で穂いもちに強く縞葉枯病に抵抗性をもち業務用としての利用が期待される。

[キーワード]水稲、恋初めし、業務用米、多収

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分]農産

[分類]指導

[作成年度]2018年度

---

#### [背景・ねらい]

主食用米の総需要量は食生活の多様化などを背景に減少傾向が続いており、家庭内で米を炊飯し消費する量は減少する一方で、食の外部化に伴い、中食外食向けに供される業務用米の消費量は増加傾向にある。本県においても、業務用米の需要が拡大しており、業務用に向く品種の選定が急務である。

そこで、普通期栽培向けの多収かつ病害虫抵抗性をもち、業務用米として利用可能な外観品質、食味を有する品種を選定する。

#### [成果の内容・特徴]

「恋初めし（中国218号）」（あきだわら／中国201号（恋の予感）：農研機構 西日本農業研究センター育成）は「ヒノヒカリ」と比較して次のような特性を有する。

1. 出穂期で3日早く、成熟期で4日程度早い“中生の早”である（表1）。
2. 稈長は同等で、耐倒伏性は同等（表1）。
3. 穂長は同等で、穂数はやや少なく、1穂粒数はやや多い（表1）。
4. 玄米の千粒重、10a当たり精玄米重はかなり重く、粒厚も厚く、屑米重は少ない（表1、表2、写真1）。
5. 玄米の外観品質は優れ、食味は「ヒノヒカリ」並の良食味である。（表1、表3）
6. 穂いもちに強く、縞葉枯病に抵抗性を持ち、トリケトン系成分（ベンゾピシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）を含む除草剤に抵抗性を示す（育成地データ）。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 「恋初めし」の現地試験における栽培管理に資する。
2. 登熟期の高温により背白粒の発生が多く玄米品質が低下する恐れがある。
3. 極端な多肥栽培では倒伏のおそれがあるので、基肥の窒素過多を避け、穂肥が施用できるような栽培管理を行う。

[具体的データ]

表 1 生育・収量・品質と倒伏の発生

試験区	品種	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	1穂粒数 (粒)	千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)	屑米重 (g)	品質	倒伏
標肥	恋初めし	8.19	9.29	80.2	20.0	13.2	89.4	25.9	62.3	1.1	3.3	0.04
標肥	ヒノヒカリ	8.22	10.3	81.5	19.7	14.8	87.1	23.3	54.8	2.5	4.6	0
多肥	恋初めし	8.17	9.28	84.2	20.4	14.6	97.0	25.2	67.9	1.2	3.7	0
多肥	ヒノヒカリ	8.20	10.2	85.3	20.2	16.1	83.0	23.1	60.6	2.8	4.3	0

注)数値は標肥が 2015～2018 年平均値、多肥が 2017～2018 年平均値、長崎県農林技術開発センター、ただし、「恋初めし」の 1 穂粒数は標肥が 2017～2018 年の平均値、多肥が 2017 年の数値、移植 6 月 15 日 3 本/株手植え、栽植密度 30cm×15cm、窒素施肥量(kg/a)は標肥で基肥 5-追肥 2-穂肥 3(Nkg/10a)、多肥で基肥 7.5-追肥 2-穂肥 4.5(Nkg/10a)、品質は 1 (上の上)～9 (下の下) の 9 段階評価

表 2 粒厚分布 (重量比%)

品種	粒厚 (mm)						
	<1.7	1.7-1.8	1.8-1.9	1.9-2.0	2.0-2.1	2.1-2.2	2.2<
恋初めし	0.4	0.4	1.1	4.4	13.9	34.6	45.1
ヒノヒカリ	1	1.4	4.6	19.3	41.6	27.7	4.4

注) 2017～2018年の平均値

表 3 「恋初めし」の食味評価

実施年月日	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	パネル数
2015.12.11	0.000 -	0.000 -	-0.300 **	0.200 -	0.200 -	-0.200 -	10
2016.11.24	-0.176 -	0.000 -	-0.176 -	-0.118 -	-0.059 -	0.235 -	17
2017.11.24	0.042 -	0.125 -	-0.042 -	0.042 -	-0.167 -	0.125 -	24
2018.11.22	0.000 -	-0.333 *	-0.143 -	-0.095 -	-0.048 -	0.429 *	21

注)「ヒノヒカリ」を基準(0)とし、総合評価・外観・香り・味は-3(かなり不良)～+3(かなり良い)、粘りは-3(かなり弱い)～+3(かなり強い)、硬さは-3(かなり軟らかい)～+3(かなり硬い)の 7 段階評価、施肥は標肥,\*\*が 1%、\*が 5%の水準で基準品種と有意差有



写真 1 玄米(左ヒノヒカリ、右恋初めし)

[その他]

研究課題名：業務用米に適した品種の選定および安定生産技術の確立

予算区分： 県単

研究期間：2018～2021 年

研究担当者：中山美幸、古賀潤弥